

①6 神明社と庚申塔



坊村地区にある神明社の祭神は天照大神です。創立は不明ですが、神社の文献によると享保3(1718)年8月に円蔵院が
大工牧野万右エ門久勝に小社を再建させたと記されています。

また、境内には明治32年2月15日(1899)に火伏せの神として遠州秋葉神社の分霊を授かり秋葉社が建立されました。現在、秋葉社には菅原道真公や応神天皇がともに祀られています。



神明社境内にある庚申塔

神明社境内にある庚申塔は、享保8(1723年)年に造立され、施主は、坊村庚申講中と記されています。正面には青面金剛※が浮き彫りされており、4本の腕のうち上段の2本は輪宝と矛をもつのが通例ですが、この塔は持ち物が異なっています。どう見ても矛には見えませんが十字架に見えます。もし十字架であれば大変珍しいものです。また、下段の2本も弓と矢を持つのが通例ですが、弓と矢には見えません。剣と鍵のようなものを持っています。

表情は忿怒の形相をして悪魔を追い払おうとしているようにも見えます。お庚申※の行事は昭和初期頃まではどの地区でも盛大に行われていたので庚申塔は各所に造られています。庚申の日には当番の家に集まり、ご馳走を食べながら夜通し世間話や農作業の話をしながらい人としての生き方を身につける社会教育の場でありました。

※青面金剛 庚申信仰の本尊。体は青色で2本、4本または6本の腕がある。
※お庚申 庚申の日徹夜して眠らず、身を慎めば長生できるとい信仰。

